

発行 日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2
 日本商工会議所中小企業振興部内
 TEL 03-3283-7847 http://yeg.jp/
 編集 広報委員会
 担当副会長 梶谷 俊介
 委員長 巢山 和枝
 副委員長 鈴木 多
 委員 南谷 信廣
 委員 垣本 佳之
 委員 森 房明
 専門委員 北野健太郎
 守岡 正彦
 神谷 成美 尾崎 康司
 川原 一郎
 渥美公太郎 服部 一則
 小川 貢 室賀 康史

平成17年2月号



vol. 40

これまで各地商工会議所で使用されている各地商工会議所のマークの下に、ゴシック体でデザインしたシンブルで馴染み易いロゴマークになっています。ロゴは各地商工会議所青年部の英語名 (Young Entrepreneurs Group) の頭文字をとったものですが、同時に各地商工会議所青年部の持つコンセプト、若さ・情熱・広い視野をもった経営者 (Youth Energy Generalist) を表現しています。



平成16年度
 全国商工会議所
 青年部連合会会長
 小園 浩幸

誇りに思う
 活発な事業展開

単色の冬景色の中、梅の紅白が待ち遠しい今日この頃です。年末年始の慌しさも一段落、この商売にYEGにフルスロットルで活躍のことと存じます。それにしても、昨年末からの自然災害の傷跡は国内外を問わず未だにそこかしこに残っております。被災にされた皆様の一日も早い復興を願うばかりです。

さて、それぞれの夢を抱いて迎えた21世紀も早や5年目。YEGの皆様は夢はその実現に近づいているでしょうか？皆様のホームグラウンドである地域において、そしてご自身のご商売を通じて、皆さまの夢は形になってきていますか？その夢の実現に役に立つYEGでありたいと思います。

商青連会長としての任期が終わろうとしている今、商青連の夢、「美しい日本」はその実現に近づいているのだろうか？と自問しています。

YEG活動の主役は各単会であり、それゆえ、商青連の役割のうち最も重要なものは、「各地単会、その連合体である各道府県連そして各地ブロック連合会という全国各地のYEG(もちろん会員個人及び企業も含めて...)の活動がより活発化し、成果を挙げ、そして各会員並びに会員企業の役に立つこと」という考え方に立ち、本年度の商青連は

- 1 単会(道府県連並びに各ブロック連合会)への活動支援
- 2 全国YEG、3万人へのビジネスチャンスの提供
- 3 組織としての力の強化とその影響力の発揮

を基本方針として各種の事業を展開してまいりました。単会への活動支援の一環として全国各地のYEGが展開する事業に関する情報を共有するための「YEG大賞」の開催とWEB上での「事業データベース」会員へのビジネスチャンスの提供の一環としての、第二回YEGビジネスプランコンテスト」の開催、「ご縁満開YEGビジネスサイト」の普及と「ビジネス交流会」の開催

等々、ほんの一部だけの例を挙げてもその活発な事業展開は胸を張れるものがあると自負いたしております。商青連役員が知恵を絞り、自らの商売との兼ね合いをつけながらの活動の中で一所懸命に展開している事業ばかりです。皆様の代表として全国から出向して下さっている役員の皆様の熱意と行動力には感服いたしております。しかしながら、一番大切なことは400余単会を会員とする連合体である商青連として、その400余単会、3万人の視点・視線でモノごとを見る事ができているか？展開する事業が本当に400余単会、3万人の役に立つかどうか？です。

まずは、全国の会員の皆様にきちんとそれらの事業に関する情報をお伝えし、利用してみたいと思っただけのようにする、そして、より皆様の使い勝手がいいものに進化させることが重要だと思っております。ですから、会員の皆さんからの要望や意見が頼りなのです。そのために、従来からのホームページ、メールマガジン、機関紙「翔生」等に加えて、まず、WEB上のYEGグループウェアである、「エンジンタッチ」を活用して商青連から各単会へのリアルタイム

の情報提供の道具として「商青連連絡ボード」を開設しました。さらに双方向のコミュニケーションのツールとして「会長と語ろう」という会議室も開設いたしました。各会員の意見やお考えには十分に耳を傾ける体制づくりをしている所存でございます。

特に、「会長と語ろう」という会議室は、今まで開催してまいりましたブロック別会長会議での意見交換会等の限られた時間の中では、皆様との意見交換が十分ではなく、全国各地の皆様のご意見をもっともっと聞きたい、もっともっと話したいとの思いから開設したものです。ただし、メールは強制配信はいたしませんので、各単会の会長様は恐れ入りますが商青連のホームページ上のエンジンタッチにてご確認をお願い致します。

全国商工会議所青年部連合会は、その名の如く、単会から独立した組織ではありません。その単会を会員として成り立っている連合会組織です。したがって、商青連あつてのYEGメンバーではなく、YEGメンバーあつての商青連であるはず。その基本をしっかりりと踏襲しつつ、昨年11月の全国大会北海道帯広大会にてご承認いただいた米子YEG・荒濱健太郎次年度会長予定者は、大きな全国YEGの期待に応えるべく、熱く燃えています。次年度、荒濱君に対しましての倍旧のご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。

ご精読 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

日本商工会議所

全国商工会議所青年部連合会

会長 小園 浩幸

荒濱健太郎氏 とはこんな人！！

氏名 荒濱 健太郎
 生年月日 昭和39年11月16日 血液型 O型
 家族構成 母・晴子(71歳) 妻・純子(40) 長男・豊樹(高校2年)
 次男・敬信(中学1年) 犬2頭・うさぎ・亀・すっぽん・熱帯魚・等
 趣味 スポーツ(バスケット・スキー・等)
 事業所 (有)荒濱建築工務店 役職 代表取締役社長
 略歴

平成3年 米子 YEG 入会
 平成7～9年 米子 YEG 理事
 平成10年 韓国へ骨髓提供(骨髓バンク)
 平成11年 米子 YEG 副会長
 平成12年 米子 YEG 専務理事
 ・米子市立加茂小学校 PTA 会長
 ・米子市小学校 PTA 連合会 副会長
 ・鳥取県小学校 PTA 連合会 監事
 平成13年 米子 YEG 副会長
 平成14年 米子 YEG 会長
 鳥取県連会長(鳥取県商工会議所青年部連合会)
 平成15年 第23回全国大会米子大会大会会長
 鳥取県連会長
 平成16年 商青連副会長(日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会)



【会員メンバーの皆様へ】

YEG 14年の歩みの中で、多くのことを人から学び、経験を重ね、数多くの感動を頂きました。その間、私が、心の支えとしてきた言葉があります。

人に何かをしてもらったときより

人に何かをしてあげて

感謝されたときのほうが 嬉しい

それが誰かのためになるなら

もう少し頑張ってみようよと 力が湧いてくる

人の役に立つこと 人のために尽くすこと

それは あなたの心を豊かに変えてくれる

真の喜びは「与える」ことから生まれる

今改めて、この言葉を、心に刻み込み、各地 YEG の視点に立ち、力を合わせ、魅力ある YEG づくりの為に役立ちたいと思います。次年度一年間よろしくお祈りします。

第25回全国大会愛知大会の大会概要が
 第155回(平成16年度第4回)役員会で承認されました。

開催日：平成17年7月7日
 ～10日

【目的】

本大会は、商工会議所活動の一翼を担う全国各地の青年経済人が、交流と研鑽を通じて次代への先導者としての意識高揚を図る。併せて、新しい地域文化の創造と豊かで住み



開催地：愛知県 豊田市

よい地域づくりに向けた役割と責務について認識を深める。以て、地域経済社会の将来にわたる健全な成長・発展に寄与することを目的として開催します。

【大会キャッチフレーズ】

愛・き・わ・み あなたに逢いたい! 愛、知る 愛知で

わが国は四季のある美しい自然環境に恵まれ、「和」の民族性に裏打ちされた独自の文化を育んできました。また、過去に幾度となく訪れた厳しい時代も民の叡智と情熱で乗り越えてきた力強さを併せ持っております。ますます世界が狭くなりつつあるこの時代、わが国は政治の場面でもビジネスの場面でも、世界で、中でも特にアジアにおいて従来とは異なる新たなリーダーシップを発揮することが求められています。その中で我ら YEG が担うべき責任と役割はますます大きくなってまいります。

そんな YEG の一員として、愛知は、この大会を通じて「愛」を語ります。人と人との心のつながりを原点に、全国のアントレプレナーのために「愛」の機会を提供させていただきます。「愛」とは人と人との心のつながり、思いやり、そして「ありがとう」から始まる感謝の気持ちです。

その感謝の気持ちは商売の原点。国籍を問いません。キーワードは「愛・き・わ・み」。智慧・技能・技術の「技」の愛知、伝統・歴史・絆・信頼の「和」の愛知、自然・環境・創造・未来の「美」の愛知を発信してまいります。

日本国際博覧会「愛・地球博」との同時開催という千載一遇のチャンスを活かし、全国から結集する YEG が、「愛・き・わ・み」を体感しながら、世界に繋がることのできる「国際性」溢れる大会にいたします。私たち YEG が商売のベースとして寄って立つ地域の経済は、世界の、アジアの経済との繋がりがなくては成り立たない時代です。地域の経済的発展に責任を負う私たち YEG に、地域にしっかりと根ざしつつ、世界、特にアジアの中での日本、その中での自分の地域であるという視点を持つことの大切さを感じていただきます。様々な国際交流を通じて、様々な気づきの場を提供いたします。21世紀はアジアの時代と言われるように、日本の中小企業の経営に関わる私たち YEG にとってもアジア諸国の動向には目が離せません。アジアの若手経営者との交流を通じて、世界を視野に入れた新たなビジネスパートナーとの出会い、ビジネスチャンス創造の機会を提供いたします。同時に、全国各地400の地域で頑張る YEG の存在意義と活動内容をアジアへ、世界へ発信していきます。

全国大会

北海道・帯広大会

平成16年11月5日、北海道商工会議所青年部連合会(以下道青連)、そして帯広YEGにとって10年来の念願だった「日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会 第24回全国大会北海道・帯広大会」の幕がきて下ろされた。この日は、全国各地から3,000名を超えるメンバーを迎えるにふさわしく、早朝から北海道特有の抜けるような青空が広がり、気温も10度を超え、多少の肌寒さを感じるものの、この時期の北海道としては申し分のない天候となった。本稿では、全国大会のメイン事業「大懇親会」にスポットを当てて報告する。

手作りの大懇親会会場

夕闇が会場全体を包みはじめた午後6時すぎ、千歳、旭川、釧路など道内各空港からの移動分科会参加者を乗せたバスや市内からのシャトルバスが続々と大懇親会会場に到着しはじめた。会場は帯広市の隣町音更町にある「十勝農協連家畜共進会場(通称アグリアリーナ)」で、西に北海道の背骨と称される日高山脈を望み、周囲を広大な畑作地帯に囲まれた雄大なロケーションに立地している。しかし、普段は牛の品評会などに使われるだけで、特別な会場装置は何ひとつない。看板、飲食ブース、ステージ、クロークなど会場装飾は全てメンバーが手作りで施工した。とりわけ、会場南側に隣接して設置した仮設会場は、「施設にお金をかけるくらいなら食べ物を実感させよう」との思いで建築現場用のビデを組み周囲にシートを張った労作の手作り会場。この野性味あふれる会場もまた北海道らしくもあつた。

道青連メンバーの力が結集

クローク、会場案内、料理の盛り付け、ドリンク補充など裏方の作業のほとんどを道青連メンバーが担ってくれた。さらに、網走、遠軽、北見、美幌、釧路、浦河の各YEGがそれぞれの地域から調達した食材を屋台で提供してくれた。地理的な事情もあり事前の打ち合わせがほとんどできない状況で当日を迎えたが、作業にあたったメンバー全員がホスピタリティを発揮し、参加者の記憶に残る懇親会を実現できたことは、道青連メンバーのパワーと結束力の強さの証左といえる。

五感に響く北海道の味覚

懇親会の最大の楽しみは食。過去の全国大会でもそれぞれの土地の食材や文化にこだわったメニューで楽しませてくれた。北海道といえば「食」というイメージが強く、参加者に北の大地の味覚を存分に味わってほしいとの一念でメニューづくりに取り組んだ。毛ガニ、タラバ、花咲の三大



んだジャガイモやとうもろこし、十勝牛の丸焼き、チーズ、ソーセージなど農畜産物、また、北海道遺産にも指定されたジンギスカン、イクラ丼、最近テレビなどで脚光を浴びた豚丼、新鮮な海の幸をふんだんに使った海鮮焼き、刺身、寿司、このほか前述のYEG屋台など参加者には北海道の味覚をまるごと味わっていただけたものと自負している。

興奮のオープニング

3,000人の人いきれで会場が熱気に包まれた午後7時、いよいよ大懇親会が開会。オープニングを飾ったのは、地元よさこいチー

ム「Excitement! maition (えくすくらめーしょん)」、そして太鼓同好会「めむおる太鼓」とアマチュアバンド「BANSAY」による踊りと演奏のコラボレーション。ステージを縦横無尽に走り回る躍動的な演舞と日本の伝統的和楽器とギター、ドラムの音色が見事に調和し、大音響が流れる会場はコンサート会場さながらの熱気と興奮に包まれた。

オープニングセレモニーと開会宣言の後、小園浩幸道青連会長ほか役員の登壇と紹介があり、小園会長、國枝恭二大会会長が「北海道の特産を楽しみ、交流の輪を広げ人的ネットワークづくりにつなげてほしい」と挨拶。来賓の砂川敏文帯広市長、岩野洋一帯広商工会議所会頭が歓迎の祝辞を述べた。



最高潮のフィナーレ

全国会長研修会岡山カンファレンス、全国大会愛知大会の趣向を凝らし熱のこもったPRの後、帯広出身でテレビの物まね番組でも人気を博すタレント何ん田研二さんのライブで盛り上がりは最高潮に達した。最後は荒濱健太郎道青連次年度会長の発声で一本締めし大懇親会はフィナーレを迎えた。

各ブロックで毎年開催されるブロック大会とは、熱あるYEG会員が一堂に会し、ヤングアントレプレナーズスピリッツ、そして強い絆を再確認することです。「間違いなく『美しい日本の創造』を築いていく支えとなる！」そんな思いを一人一人の心の松明につけて各地域へお持ち帰りいただき、そして各地のYEGで輝きをもって事業を行っていただく、そのようなことを目的に毎年1回開催しております。

すてきな情報を得るためには、互いに鮮度の高いネットワークが必要になります。「情報」とは、「情けに報いる」と書きます。確かな情報を得るためには、デジタルな社会(インターネット)だけではなく心と心のつながりをもった良好な仲間環境が必要になります。ここから創造的商品(オリジナリティ)が生まれ地域社会に貢献できるのだと信じております。

その開催地でしか体験できない分科会、記念式典、記念講演、大懇親会を通じて「美しい日本の創造」に向かって歩いていきましょう。

平成16年度 専務理事 中村 寿志

19 Block Story

日本一人口の少ない市で
やり遂げたブロック大会

北海道 ブロック大会を 主管して



昨年9月18日(土)歌志内YEG主管により「第17回北海道ブロック大会」を大過なく終えることが出来ました。

大会開催に当り、北海道内並びに全国各地から参加していただきましたYEGメンバー、そして公務ご多忙の折にもかかわらずご臨席を賜りましたご来賓の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成15年7月に平成16年度北海道大会主管のお話をいただいたときは本当に驚きました。

当市は日本一人口が少なく、小さい市ということもあり会場は！宿泊施設は！交通機関は！そしてメンバー15名でできるのか！等々、他のまちでは考えられない問題が最初にたくさんあり、不安だらけのスタートでした。

役員会を開き、メンバーと大会主管について協議を重ねました。

結果、メンバーからは「例年のような立派な大会は出来なくても、思いやりを持った歌志内スタイルを!!」という意見でまとまりました。

翌8月、道青連理事会で大会主管を正式に承認され、一步一步前に向かって準備を始めました。

開催地テーマ「尖鋭結集！将来に向かって」のもと実行委員会を作り、大会の日程や内容について、メンバーが一丸となって準備を進めてまいりましたが、苦労も多々ありました。

実行委員会や、専門部会を幾度となく行い、疑問があれば前年度大会主管をした北見YEG事務局さんへ問合せをする日々が多く、問題をクリアしてはまた新しい壁にぶつかる、その繰り返しでした。

大会が近づく頃にはメンバーの意思統一もでき、緊張感も高まり、入念な確認作業を夜遅くまで何日も続けましたが、当日はメンバー1人1人が役割を遂行し、大きな混乱もなく、運営をスムーズに行えたと思っております。

私は受付担当していたので、記念式典や記念講演、大懇親会などを自分の目で見る事が出来ませんでしたので、後日、ビデオで見たときには改めて終わったという安堵感とやり遂げたという達成感でいっぱいでした。

最後に大会主管という機会を与えていただき、大変貴重な経験をさせていただきました、関係者皆様に厚くお礼申し上げます。

北海道歌志内商工会議所青年部事務局

山中 隆志

「コミュニティビジネスの魅力にせまる」

平成16年度コミュニティビジネス委員会

担当副会長 梶谷 俊介
委員長 松田 善信

「コミュニティビジネスとは、地域で起こっている様々な課題・問題を地域住民が主体となってビジネスという手法で解決していく事等が一般的に言われております。皆様もどこかで聞いたことがあるのではないのでしょうか。」

まずは我々商工会議所青年部がコミュニティビジネスを行う魅力についてご紹介していきます。商工会議所青年部は、地域で様々な活動をしていること、街づくり・お祭り・商店街活性化事業等、地域・地域住民と切っても切れない関係であること、地域に根ざして業を営む企業家であること、青年部には多様な才能を持った人材が集まっていること、全国商工会議所青年部連合会を通して全国にネットワークがあること、青年部メンバーは既に経営資源を持っていること等で、コミュニティビジネスを実践するうえで大きな優位性を持っています。それでは青年部メンバーが行っているコミュニティビジネスの実践事例を紹介します。

麦わらばっしーの会

栃木県足利YEG

栃木県足利市の「麦わらばっしーの会」は栃木県産の小麦の普及拡大を目指し、地元の笠原産業(株)代表笠原健一君(商青連CB委員会)を中心に、生産農家・JAパートナー企業・サポーター消費者が結集したCBで、栃木の小麦繋ぎの業種横断的ネットワークの上に、町おこし・地域づくりの一役を担っています。素材資源としての地元小麦「企業資源としての地元パートナー企業」を活用して「スローフード」「地産地消」「食育」を柱に事業活動を展開しています。



http://slowfood.smile.tc/japan/ki_2.html

酒田まちづくり

開発株式会社

山形県酒田YEG

第三セクターの観光開発を、全国で初めて民間で買い取った例です。心豊かで繁栄のある地域づくりを創造する市民企業として、酒田YEG酒田JCMENバーの有志が出資をして平成16年4月1日酒田まちづくり開発株式会社としてスタートしました。

事業計画は、専従者雇用確保に向けての初期収益事業の展開、地元産品を活かした特産品 観光みやげもの品等の共同企画開発の推進、酒田の情報発信媒体のネットワーク化、酒田に関するすべての情報発信ホームページのネットワーク化、地元産品の販売ルート開拓、小規模作業所等との連携、ハンデを抱える人の自立を支援していくために加工製造工場の設置等です。

何よりユリクなのが、この会社の取締役には、市長・会頭・地元農協組合長等様々な人材が集まっており、まちづくり会社の将来のあり方、地元観光施設でこ入れ等討議から実践までこの会社で出来てしまつたことだと思えます。

このような二つの事例からも伺えるように、地域を愛する青年経済の自覚を持ち、このような混迷な時代だからこそ自分の住んでいる、市・町・村の問題を考慮し、発展させていくことにコミュニティビジネスの魅力、自社企業の発展に繋がっていくと確信しております。

【Community Business】

そもそもコミュニティビジネス(以下CB)って何? (九州CB推進会議のホームページより抜粋)

住民が主体になって、地域の資源を活用することによって、より良い地域づくり、生活づくりに貢献するための事業活動のことを言います。

1. ここでいう「コミュニティ」とは、中学校区をひとつの地域(コミュニティ)といわれていますが最近の傾向としてもっと広域になっているようです。
2. 地域のために起こす事業(CB)は、無償活動ではなく、収益を得る事業活動で地域の遊休資源利用を通して、適正な利益を得られるように事業推進しますから地域の隠れた資源の掘り起こしや再生などに一役買うということも重要です。
3. これまでの事例としては、初期的な補助金や行政の受託事業など地域の行政などとの連携を通し、力をつけつつ、自主運営化に発展するケースが多く見られます。つまりよりよい街づくり、自分起こしなどのために、等身大ではじめる起業へのチャレンジが主で、ローリスク・ローリターンの事業といわれています。
4. CBが育つ土壌づくりにおいては、行政や社会貢献を進める企業の理解が欠かせませんし、(ア)活動の支援者として、(イ)雇用者として、(ウ)サービスをうける消費者として、より多くの地域住民を巻き込みながらネットワーク網を作ることもコミュニティ・ビジネスでは重要です。
5. 提供するサービスは異なっても、共通する目的がコミュニティ・ビジネスにはあります。それは、地域と住民と事業者の共益、共生の理念に基づく事業推進活動です。これがコミュニティ・ビジネス活動の第1目的と考えられています。この点が、従来の私益追求の事業と一線を画する点です。



いさら人に聞けない?!
YEG時事用語

出向者覆面座談会

平成 16 年 12 月 2 日 夕間せまる午後 5 時・・・ここは東京・東商ビル 7 階。会議場では役員が今年度最後の東京での役員会に挑んでいます。今日はいつもにも増して喧々諤々やっているそんな中、オブザーバー席を外れてロビーで息抜きする専門委員達。中の喧騒にあおられてか、なんだか外でも賑やかにブツブツやっています。 ちょっと聞き耳を・・・。

公募委員の

つぶやき茶話会

今日は総務と企画委員会以外（本年度の公募のあった委員会）の方たちですよ。一年やってきての思いをお題にとらわれなく話しましょう。じゃ、H氏で取りまとめしてね。（司会決定）

H氏 今回自分から進んで出向された皆さんに「その理由、経緯」を聞かせてもらえませんか？

I氏 それを言ったら誰か判っちゃいませんか？ ま、いいか。私の場合出向の目的は自己研鑽ですかね。人づくりといいますが、いろんな人と知り合いたいと思ったわけです。全国大会開催に向けての準備の一環でもありました。

K氏 私はずっと出向してますね。仕事も全国展開していますので、ビジネスチャンスを求めてという一面がありますよ。実際多くの方と知合い、ビジネスにつながりましたし。

H氏 そうですよ、ビジネスあつての YEG。Sさん、Aさんはどうですか？

S氏 私は昨年は出向とかじゃなく機会があつてほぼ一年間、商青連を間近で見ましたが、いい勉強が出来ると感じました。商売がら直接ビジネスにつながるのには難しそうだけど、自己研鑽として参加したいと思いましたね。しかし、商青連はまだまだ複雑で「数年間」というスパンで取り組まない・・・。だから来年度以降が楽しみです。

A氏 僕は昨年度単会で商青連にお世話になったお礼として出したんですが、もともと出会いというのが好きなので、長い目で見た利益というか、同じ汗をかいて深くつながりを持つことに意義を感じてますね。

H氏 みなさんそれぞれの動機や考えがいろいろですね。Kさんは結果を見つけたらようで、それで行くと、話的には終わってしまったような・・・。

K氏 そうですね。数年前の出向では考えられなかった。アントブレナーズ委員会が始まって「みんなだビジネスをやるよ！」って言う雰囲気が出来たんだと思いますよ。そりゃ三万人の会員とチャンスを共有できるんですから・・・。それに、出向者、特に公募の連中は中途半端な気持ちで出ていないですよ。ぼくは実例を作れたかつたし、それが実感できたから裏方になつても皆さんの役に立ちたい



つたというのも動機としてあるんです。

I氏 自分もこの一年で出向してよかったということがあります。じつはこの間の秋田での「翔生塾」で自分がいま何をしたいのか明確になったということなんです。

H氏 じつは私もお金もかかるし悩みましたが、単会の事情もあつて出向。それが今となっては自分自身いるんな地域の感動を味わえ、またそれを単会に還元できると感じています。皆さんはどうですか、単会と商青連ということでは、なにが違うのでしょうか？ A氏は？

A氏 単会での悩みなんて、外ではちっぽけだなと感じますね。ぼくもこれまでの数年間で日本中、いろんなところに行つてみて感じました。そしてそれが仕事や単会に役に立つ。帯広、米子なんてまさにそう。

I氏 問題は商青連がなかなか開けていないということ。だつて単会から出向してないし、出向者の中には「単会ではダメなんです」などと単会をおろそかにしている人もいます。単会がベースだと思ふんです。

H氏 商青連の敷居の高さを感じます？

I氏 今年は途中から入れてもらったような感じだったので「ポツン」という感じでした。もっと我々が自由に動ける組織であつて欲しいと思いますね。例えば県連の役員が商青連の理事として出向しますが、もっと出たい人が自由に出れるとか・・・。

K氏 温度差は感じますよ。単会で終った人が頼まれたから商青連に・・・。もっと自分で食欲に動かなきやだめですよ。そして単会に情報を落としていくんですよ。公募委員の人のほうがいるいると人を紹介してますよ。今年なんか会長が身近になつたし、役員会もオブザーバーとして出席できるんですよ。その会議なんかのノウハウを県連や単会で使わなくちゃね。

H氏 僕らもフィードバックしたいですね。この商青連、どう感じておられますか？ S氏？

S氏 活動が多岐多彩になつてきていますよ。こなしきれないんじゃないかと思つたりします。余力がないですね。単年度制なので引き継ぐのも大変。我々も考えちゃいますね。

ここからカメラマンO氏乱入

O氏 ばくもみなさんと同じ思いで
す。ただ商青連としては「リーダー
シップをとる事業」と「支援を
していく事業」の二面で考えたら
どうかと思っています。災害の支
援でも「支援したい人達の支援」
の道筋を整備する、という感じ
で……。

H氏 たしかにいろいろと変わる必
要もあるかもしれませんがね。

A氏：変えるといっても複数年間し
ないと難しい面もありますね。Y
EGの認知度が低くて担当大臣で
すらJCと間違っなかで、認知度
を上げようにもYEGに内在する
縛りが結構きついんですよ。やり
たいことをやる、そのために決ま
りことを決めていくというよう
な柔軟さが足りないように思える
んです。

K氏 単会でもビジネスをとりあげ
て事業しているところもあるけど
単年度で会長の考え方が変わら
すよね。単会によってやわらか
いところもお堅いところもあり
ます。商青連でも大会日程が変更
になると初めの試みがありました
がこういう自由な変更が、受け皿
を広くして熱が伝わるという一
面もありますよね。広報も公募委員
で変わったんじゃないですか？

書記 変わったというか活性化した
と思います。(自己満足?!)全体
的な活動内容なんかは来年度の特
別委員会が一年かけて考えるん
じゃないかな。

H氏 そうなんです。

K氏 委員会や執行部での引き継ぎ
を出来る人材の登用なんかも必要
だと思えますね。専門委員から委
員長なんていいんじゃないです
か。

I氏 理事から委員長を選出するの

は無理がありますよね

書記 ここにも例を見ずそんなのが
いますよ。今年公募委員で来年の
理事兼委員長予定者なんですけ
ど……。でも、いまからどんな
になるのか、気になって気になっ
て、胃が痛いよ……。

K氏 初めての理事でやったことも
ない委員長なら前年を踏襲しよ
うとするだけで時間が過ぎるし、
それなら書記さん、いいんじゃない
ですか。思ったように突き進ん
で……。

書記 ガラツと変化したいというこ
ともありますしね。

K氏 でも、立場代わって商青連の
会長となると、至難の技だろうね。
全国大会を境に五年以上は拘束さ
れますし、なかなか変化が難しい

A氏 単会でも直前会長の存在は
気になるしね。何か変えようとす
ると力が要るよね。

書記 会議のときなんか会長の横に
直前がいるとちよつと気使って発
言的に遠慮してないですか？

K氏 でも、単会ならけんかもしま
すよ、しやすいし。商青連ではも
つと公募委員の声も聞いて使いこ
なしてくれればいいじゃないか
な。

I氏 研修で言えば去年にくらべ今
年は公募委員も増えて、また分け
隔ても無く良かったから、全委員
会募集したらいいと思いますね。

書記 でも、例えば企画のように、
ある種精鋭的な限られたメンバー
で無いと動けない委員会は足かせ
をつける必要があるんだと思いま
すよ。

S氏 商青連は上部組織ではありません
せんと何度も言うておられても、
単会から見るとそうは見えずに、

だからブロック理事や県連会長に
負担がかかっているというところ
もある気がします。

書記 そういう歴史がありますね。

K氏 県連会長が委員長をするのも
きついいし、県連の副会長あたり
に活躍してもらいたいと思う。

ここからH氏から司会を書記が奪
還

書記 では皆さん、最後に……来年
も公募による出向されますか？
また今年度やってみて居心地
(?!)いかがでしたか？

K氏 今年は100%使ってもらっ
て満足しています。これからもそ
の都度やって行きたいですね。

S氏 居心地ですが、それはいいの
がいいことなのかな。これだけや
つたところがあるが自分の終わり
なので来年もがんばりたいと思
います。

H氏 僕もこのままでは消化不良
なのでチャンスがあれば……(笑っ
てごまかす)

I氏 来年は新しい委員会がいいけ
ど、条件があつてダメみたい。で
もどこかに出向します。

書記 私も自分の単会からずっと誰
かが出向してくれるようにしたい
ですね。バックアップをしてでも
ね。

O氏 出向者は県連、ブロック、商
青連と各人の仕事とかによって、
メリットのあるところに自由に出
向できたらいいと思いますね。

K氏 それに各地域から偏らずに出
向してもらうほうがいいですよ。

書記 ありがとうございます。

出席者プロフィール ちょっとだけ

- 司会 H氏 大津の貴公子 広報
- K氏 商青連歴すごいたくさん。名物男として有名 BN委員会
- A氏 愛知県のみならず子 広報
- I氏 研修委員会より豊川のいぶし銀
- S氏 神奈川の秘蔵っ子 CB委員会 前会長の側近の一人
- 書記(K氏) 次年度広報委員長
- カメラマンO氏 長身織細年長者

本年度の研修委員会は、商青連スロガンにある『美しい日本の創造』を、メンバーが事業活動を通じて目指していきけるよう、高い志」と経営スキルを身につけた経営者を生み出していくことに主眼をおいた研修事業を開催して参りました。

第2回YEG「ビジネスプランコンテスト」では「コンテストを通じて、各地に埋もれているビジネスプランを発掘し、その起業化、事業化を促し、地域経済のオピニオンリーダー企業を育成することを目的としました。

従って、本コンテストは、チャレンジされた応募者に単に順位をつけたり、賞金を出すので



なく、下記の各種研修指導によりプランの作成・ブラッシュアップをフォローアップし、選考、表彰の一連の活動を通して、様々な角度から自らの経営力、経営センスを磨く場を提供しました。そして、優れたビジネスプランを表彰・発表することにより、広くそのプランを世に知らしめ、企業提携等の「コラボレーション」の機会を促し、起業化、事業化の促進を目指しました。

今回、全国から30件のビジネスプランが応募され、現在も審査、応募者への各種研修・指導を通じたフォローアップが進行しております。

ビジネスプランコンテストで

開催された研修

「YEGヤングリーダー研修会」(応募に先駆けたビジネスプラン作成研修)

応募された全プランへのポイント・コメントのフィードバック

1次審査後のフィードバックセミナーと個別指導

2次審査に向けたプレゼンテーション研修

(研修指導：(株)野村総合研究所(株)小宮コンサルタンツ)



また、本年度は翔生塾 in 秋田」と題し、秋田CCI秋田YEGの協力のもと泊3日の合宿研修を開催しました。メイン講師である越純一郎氏をはじめとする5名のプロのコンサルタンによる経営塾となり、たいへん大きな気づきの場になりました。



今回の翔生塾の目的は、会員の経営者としての資質向上を目的とし、経営者として必要とされる人格的要素と技術的要素の両面を身につけるため「志(経営理念)の大切さ」と「売上販売力強化」を柱とした、「美しい日本の創造」に向けた会員それぞれの企業力の向上の一助となることを目指すものでした。経営者の人格から積み出た哲学、経営理念をもとに、戦略をたて、戦術を練り、販売の現場で戦闘していく一貫通貫の大切さを教わりました。

また、研修後は、大館YEGによるおもてなしの日本一のきりたんぼ鍋」を囲んでの熱い討論会が繰り広げられました。

一年を通じて、事業開催に対し、各方面からのご協力をいただきありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

研修委員会委員長

池戸 一成

YEG事業データベースって？

総務委員会より

「YEG事業データベース」とは、各地単会事業と各単会情報(資源表)を統合した環境として構築された、全国YEGの総合データベースシステムです。各地YEGでは「まちづくり」をはじめとして「まつり」「研修」「環境」等をテーマとした、様々な素晴らしい事業が展開されています。その各地単会の情報を全国のメンバーに共有していただく為に「YEG事業データベース」は開設されました。

「YEG事業データベース」は、全国各地で開催されている様々な事業をより多く登録していただき、情報とノウハウを蓄積していく事により、その真価を発揮いたします。現在は、開設間もない事もあり、登録数はまだまだ少ない状況です。是非、皆様よりの「YEG事業データベース」への多数のご登録をお願いいたします。

単会での新規事業の立ち上げ、また、単会事業を更にパワーアップさせる為に、この全国400単会の事業ノウハウは欠かせない情報源となるはずで

総務委員会委員長 森 通人

「YEG事業データベース」…<https://at.yeg.jp/yegdb/>
「データベースへのアクセス方法や登録方法」…
http://yeg.jp/2004/chart/general_affairs/040915/index.html



YEGサッカー大会を振り返って

10月16～17日、「商工会議所青年部 第2回全国サッカー大会茨城大会」が、日立YEGの主管のもと、日立市・ひたちなか市の3会場において開催されました。

参加チームは、昨年の開催地、藤枝YEG、昨年優勝の日立YEG、古河YEG、ひたちなかYEG、浜松YEG、上尾YEG、埼玉県連、群馬県連、千葉県連の9チーム。

初日の予選は各3チームごとに分かれてのリーグ戦、2日目は予選リーグごとの1位、2位、3位ごとに分かれた決勝リーグ。試合中は、日頃の運動不足のせい、それと年齢のせいもあるのか、足のつりや肉離れ、息が上がリ動けなくなる選手や足がもつれ転ぶ選手と熱戦の中にも、笑いがこぼれる場面も多々あり、そして初日夜の大懇親会のあとには、日立の町に繰り出すのかと思いきや、2日目の決勝リーグに体力を温存する為なのか、それとも満身創痍で早く横になりたいからか、静かな夜を過ごし、とても健康的で楽しい有意義なサッカー交流になったようです。

ボールがあれば手軽に出来るのがサッカーです。来年は皆さんの単会でも参加されては如何でしょうか？スポーツで流す汗はとても心地いいものですよ！



のぞいて
みよう！

こんな単会の 人気ホームページ

<http://www.ycci.or.jp/ippin/>



あの牛で有名な米沢の町に
YEGがイキキとしてるみたい

「のりくんは、よねざわダイスキっ！毎日、美味しいもの食べて、飲んで、歌って、眠って。あっちこっち・お出かけもするよー色んな人によねざわに遊びにきてほしいんだ！だからのりくんのホームページで色んなお店紹介してるの。みんなよねざわ来てねっ！」って言ってるこのホームページの「こ行ってみっぺ」をクリックしてみてください。

かわいい女子アナが会員のいろんな店を紹介しています。もちろん動画で声付き！ーこんなコトクな紹介してもらえらるなら入会してもいいかな。会員同志の理解がぐっと増して単会事業にもいいんじゃないでしょうか。

もちろん商売の大きな助っ人にもなるし、自社を第三者に紹介したいときにも役に立ちそうですよ。

まんず、こんなすてきなアイデアみがしていただら、おおぞんだべさ！??



知らないでは済まされない!!

YEG時事用語

【SBIR】中小企業技術革新新制度

SMALL BUSINESS INNOVATION RESEARCH

中小企業による研究技術開発とその成果の事業化を一貫して支援する制度です。要するにお金もあげますからがんばってくださいといつありがたい制度です。

これまでSBIRを活用した中小企業では自社の技術開発力アップや事業化に役立てています。会議所でも申し込み方法など教えてくださいませよ。

SBIRの創設を提言した日商では、SBIR推進協議会を組織し中小企業さんに利用いただくために、セミナーの開催やホームページでの情報提供（SBIR推進協議会のページ）などの支援を行っています。その一環で中小企業さんに利用いただける助成制度を集約した冊子（SBIR関係省庁連絡会議が取りまとめ）がありますので、下記のアドレスからご参照ください。経済産業省、中小企業庁、文部科学省はじめ、各省庁の助成制度の情報が盛り込まれています。

「中小企業技術革新制度-ご利用の手引き」

<http://www.chusho.meti.go.jp/gijut/sbir/goriyounotebiki.pdf>

「SBIR推進協議会のページ」(平成17年度の各制度の公募に関する情報あり)

<http://www.jcci.or.jp/sbir/index.html>

編/集/後/悔...

会長の言う「美しい日本」の芽は育ったのだろうか。広報委員としてできることは「美しい」委員長を助けるだけか。いろんなアイデアを持ちながら何もできなかったのに本年度も残りわずか。商青連に自主的に出向できるようになってよかったと思いつつ、まだまだ広報不足の為、「こりゃええわ熱」が伝わってない。出向者は熱く蠢いている。何もしないで報われるなんて虫がいい。三月の声を聞けば「啓蟄」。虫だっ黙って寝てた訳ではなかった。目的を持ってがんばってきたものだけが土から這い出てくる。僕もまたその熱をもらって単会に戻ります。紙発行の予算はなく、それでも各単会でプリントアウト配布され、この編集後悔を読む人がたくさんいると願いつつ。つづ、商青連へ、熱き者達よ。(小川)